

平成25年度(2013年度)宝塚市きずなづくり推進事業補助金

No.	申込団体名	自己評価		評価		
		事業概要	決定額(円)	効果	担当課意見	審査委員意見
1	仁川高丸座	<p>仁川高丸座</p> <p>時期:平成25年4月1日から(平成24年7月から継続実施)</p> <p>場所:仁川高丸3丁目(高丸地域の中央)</p> <p>実施:毎週月曜日(9時から12時)</p> <p>参加者:毎回10人〜15人(年間延べ800人)</p> <p>内容:参加料100円(コーヒー・卵・菓子提供)、歌謡・合唱及びサービスによる健康・福祉講話</p> <p>・実演、介護予防サービスの現状紹介(月1回)</p> <p>運営者:自治会役員(若干名)、ボランティア(数名)</p>	43,000	<p>昨年7月から高丸座を運営しているが、利用者の反応は「毎週のテーマタイムが待ち遠しい、一体感が芽生える。地域での存在感が高まる。気持ち前向きになる」等が寄せられている。今後とも、本事業を継続していくことにより、絆の輪の広がりが大いに期待できる。また、毎回、みんなで歌おうという雰囲気が出され、ピアノやCDを活用した童謡や演歌等の合唱には感動を覚え、高丸の一体感の輪の広がりを感ずる。</p>	<p>市民協働推進課</p> <p>運営に携わる地域住民の創意工夫により多様なプログラムを用意するなどの努力をされ、地域の高齢者の居場所として、また交流と情報交換の場として、参加者が増加していることは意義あることと考えます。これをきっかけとして地域のきずなが深まることを期待します。</p>	<p>地域住民の皆さんに事業が認知され、誰もが気軽に立ち寄れる地域の居場所として、定着してきている事が伺えます。今後は、開催日を増やすなど、活動が活性化されることを期待します。</p>
2	すえなり小学校区まちづくり協議会	<p>基礎学力習得支援事業(寺子屋塾事業)「寺子屋すえなり」</p> <p>・事業の実施時期:平成25年4月から平成26年3月までの月曜日の14:30〜16:00</p> <p>・事業の実施場所:末成小学校 南館1階 多目的ホール</p> <p>・事業の実施回数:28回</p> <p>H25/4/22、5/13,20,27、6/10,17,24、7/1,8、9/9,30、10/21、11/11,18,25、12/2,9,16、H26/1/20,27、2/3,10,17,24、3/3,10,17,24</p> <p>・事業の内容:スタッフは、子ども達が終えた学校の宿題をチェックし、間違いがあれば、それを指摘し、子ども達に考え直させ、正しい答えを導きだすのを支援。そして、スタッフは、宿題を終えた子ども達に、寺子屋で用意した国語や算数のプリントに挑戦させ、終わったら、それをチェック。また、スタッフは、勉強以外に、子ども達に礼儀やマナーを啓発。</p> <p>・事業への参加者数:小学生=延べ725名、1回あたり26名。ボランティアスタッフ=延べ212名、1回あたり8名</p>	16,000	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達は寺子屋の開催を楽しみにしている。 ・国語や算数のプリントに挑戦するなど、子ども達の勉強に対する意欲が感じられた。 ・子ども達は、入り口で上履きを揃えたり、挨拶をしたりするように。礼儀やマナーを少しずつ身に付けている。 ・子ども達とスタッフとの間に絆ができたため、寺子屋以外の所で出会った時、彼らから挨拶をしてくれたり、スタッフから声をかけたりするようになった。 ・子ども達の基礎学力習得を支援することにより、スタッフは脳細胞が刺激されるとともに、子ども達から元気が貰っている。 ・寺子屋での子ども達の支援が彼らの保護者の支援に繋がりを、保護者から感謝されている。 ・子ども達と接することにより、スタッフは、コミュニケーション力を更に向上させなければならないと刺激を受けている。 ・この事業を始めたことで、人と人とをつなぐ新たな社会的ネットワークができた。 ・寺子屋が子ども達の放課後の居場所となっている。 ・寺子屋の終了時に、部屋の掃除を手伝ってくれる子どもがいる。 	<p>学校教育課</p> <p>地域の方が地域の子どもの健全育成に積極的に携わることは、大変有意義なことだと考えます。本事業は、子どもたちの基礎学力の向上だけでなく、挨拶や礼儀等、基本的な生活習慣の定着にも寄与している。また、日頃の悩み等を相談できるなど、子どもたちにとって、心の居場所になっているので、効果が高い事業であると考えます。</p>	<p>学習支援並びに日常生活の礼儀作法まで身に付くように指導しており、模範的な活動といえます。また、子どもを通して親の支援にも繋がるなど、効果の広がりも伺えます。子どもたちにとっても、地域の大人とのかかわりの中から多くの学びを得ることができるでしょう。さらなる事業の広がりに期待します。</p>
3	中山台コミュニティ	<p>第九を歌う会コンサート</p> <p>平成25年12月23日午後2時より、市立ベガ・ホールにて実施しました。演奏会は補助しやすさを感じなければならぬほどの盛況となり、地域の支援の大きさ、演奏会への関心の高さを感じたものでした。合唱団参加者は92名でした。演奏は、ベートベン交響曲第9番第4楽章「歓喜の歌」のほか、合唱団とソリストによるオペラ曲、クリスマスソング、地域の若手演奏家の演奏など観しやういもので盛りだくさんでした。</p>	210,000	<p>ベガ・ホールが超満員になるほど好評でした。地域の合唱団として発足した「第九を歌う会」ですが、最近では中山だけでなく、中山以外の地域へも積極的な参加を呼びかけた結果、本年度は52名中約20名に達し、市民全体の宝塚らしい文化的事業として定着しております。</p> <p>参加者は若者男女に幅広く渡っており、学生時代・会社時代に経験のある人から初めて楽譜を手にする人まで、音楽への参加のよい機会となっております。</p>	<p>文化政策課</p> <p>中山地域から始まった合唱活動が他地域へも広がり、幅広い年齢層の参加のもと22年間も長きにわたり続けて来られたことは、大変意義深いものと考えます。これをきっかけとして、地域住民のきずなが深まり、市民が文化に触れる機会がより一層増えることを期待します。</p> <p>また、今回で補助金の交付が終了しますので、今後は団体の創意工夫により継続されることを望みます。</p>	<p>長年継続されてきた地域住民による音楽活動が、予想を上回る市民の参加を得て、盛況な事業へと発展したことは、文化のまち宝塚のイメージを高める有意義な活動であると評価します。今後も、市民の関心と参加意欲を促し、音楽文化を高める事業として継続されることを期待します。</p>
4	第5地区自治会連合会	<p>災害時一人も見逃さない、避難所設置・運営マニュアル等作成</p> <p>避難所設置マニュアルや宝塚市立長尾小学校に特化した行動マニュアルの作成に力を注いだ。</p> <p>防災防犯部会での集まり・年間14回 長尾ふれあい広場 延べ240名参加</p> <p>民生児童委員役員・自治会連合会の集まり・8回 平井自治会館 山本文化会館他 延べ98名参加</p> <p>民生児童委員役員・防災防犯部会・自治会会長の集まり・6回 180名</p> <p>民生児童委員・民生児童委員協力委員・自治会連合会の研修会・3回 210名参加</p> <p>3組織合同研修会(個人情報・守秘義務) 2回 山本文化会館、東公民館 延べ260名参加</p> <p>長尾小学校防災訓練、長尾南小学校防災訓練、丸橋小学校防災訓練、長尾南幼稚園避難訓練等に参加 愛和苑福祉避難所マニュアル作成勉強会3回 80名参加 訓練1回100名参加</p> <p>災害時要援護者台帳更新作業 地震災害時役立つマップ作成 仏教大学後藤先生を招いての研修会8回、訓練3回 要援護者指針研修会 2回 160名</p>	300,000	<p>各指定避難所(学校)の特徴を考慮に入れ、それぞれにマニュアルを作成する予定であったが「長尾地区」のマニュアルに変更しそれぞれの避難所の施設利用計画冊子を作製した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時民生児童委員行動マニュアルを作成し、退任の委員にも配布し協力を依頼した。 ・昨年度、災害時要援護者リスト作成のため40名の民生児童委員がそれぞれの担当地域を歩き、高齢者の見守り活動とともに同意書を回収することができ、それぞれの福祉票の中身が充実した。民生児童委員と多くの高齢者や障がい者が互いに顔見知りの関係になることができ、安全安心の暮らしにつながった。本年度はリストの更新作業を行った。 ・あいわ苑の市との福祉避難所協定に対して、地域と関心をもち協力し、勉強会、訓練を経てマニュアルがほとんど完成している。 ・各学校での防災訓練や避難訓練に地域住民の参加が多くなった。 ・民生児童委員協議会との連携、協力が日常的になり、合同での事業が多く地域での活動がさらに活発になり地域住民の安全安心な暮らしを支えている。 ・地域の中で繋がることの大切さを学んだものが多数いる。 	<p>総合防災課</p> <p>大規模災害において、行政だけでなく、避難所の施設利用冊子作成や災害時要援護者リスト更新作業等を通じて、地域においてお互いの顔が見える関係の構築を更に強化するなど、本市他地域の模範や目標となり得る成果である。</p>	<p>災害時における避難所の運営や災害時民生児童委員行動マニュアルを策定するなど、自主防災における先駆的な取り組みを評価します。また、地域内の福祉施設との学習会や防災訓練を合同で実施するなど連携した取り組みにより、要援護者を地域全体でサポートする体制づくりに役立つ事業であると考えます。今後は、活動を積極的にPRし、他の地域にも普及することを期待します。</p>

No.	申込団体名	自己評価			評価	
		事業概要	決定額(円)	効果	担当課意見	審査委員意見
5	宝塚むこスケッチ会	<p>スケッチによる宝塚の「こころと景」再発見・発信事業～市制60周年に向けて～</p> <p>今年度事業の範囲は、市民からスケッチ作品の募集、公開展示と市民による入選作品選定(市内3ヶ所)、入選作品の市内2地区での展示会とスケッチ・トークを開催した。</p> <p>詳細実施スケジュールと参加者数などは以下参照。</p> <p>①スケッチおよびスケッチおすめポイント募集要項作成。7月～8月。 ②募集案内(チラシ、ポスター)作成、印刷、配布。広報など掲載。 ③募集期間。9月～10月。市内外66名から248点の作品が応募された。 ④応募作品とポイントの確認作業。市内全域対象。車および公共交通利用。 ⑤応募スケッチおよびポイントの展示。額縁、マット装丁作業、展示作業など。10月～11月。 ⑥応募スケッチポイント地点位置図作成。展示会案内チラシ、ポスター制作配布。 ⑦応募スケッチ展示準備と展示会及び市民投票会開催(市内3か所、西宮、東公民館、西公民館で実施)。市民投票会延べ888名参加。展示会参加者は延べ約1000名。 ⑧市民投票の結果を集計。入選作品選定作業。3地域それぞれの上位60位、全体の上位60位 ⑨入選作品とし、合計81点を入選作品とする。 ⑩入選作品の展示会およびスケッチ講演会開催。市制60周年イベントと併せて2/16宝塚ホテルで展示会開催。2/22,23西公民館で展示会とスケッチ・トーク開催。展示会には約500名参加。参加者へのアンケート調査実施延べ約360名回答。市内外から企画と事業について非常に高い評価を得る。 ⑪3月初め報告書とりまとめ提出。</p>	300,000円	<p>入選作品展示会及びスケッチ・トーク開催時に併せてこの企画と事業について市民への簡易アンケート調査を実施した。その結果以下のことが明らかになった。</p> <p>①これまで手軽なスケッチを活用したこのような企画(作品募集、展示会、市民投票など)が無かったため、ひじょうに高い評価を得ることができた。 ②このような企画や事業を毎年開催してほしい、少なくとも1回/2年は実施してほしいとの意見が大半を占め、関心の高さが明らかになった。 ③市民はこのような簡易なスケッチ作品発表の場を希望していることが明らかになった。 ④市民はこのような優しく、表現力あふれるスケッチ作品の展示会をつく望んでいることが明らかとなった。 ⑤スケッチにより宝塚の著名な魅力はもとより隠れた魅力、普通存在する魅力が優しい絵で表現され、改めて宝塚の誇りやすばらしさを見直したという成果が得られ、宝塚や地元の街を再評価する機運が生まれた。 ⑥簡易なスケッチという方法を使って、自分も取り組んで見ようと言う積極的な動きが感じられ、高齢者の生き甲斐や積極性発露のきっかけづくりとなり得る。 ⑦入選作品スケッチを活用した総はがき作成やガイドブック作成など、宝塚市を内外にPRする魅力的な素材が蓄積された。 ⑧今後、市制60周年イベント事業にとどまらず、事業費的にも簡便でかつ効果的な事業としてスケッチを総合的なまちづくりの手法として活用していく道筋と効果が確認できた。</p>	<p>政策推進課</p> <p>市民目線で市内の魅力あるポイントを探るという試みは、自由提案型ではあるものの、「地域の資源、魅力再発見」という行政提案型テーマにも沿ったものであり、水彩画によるスケッチという親しみやすく手軽に参加できる手法を取り入れたことも評価できます。結果的には予想を上回る248点の応募があり、市民投票でも888票を集めるなど市民の関心の高い事業となり、スケッチを描かれた方にとっても、作品を見に来られた方にとっても、多くの「まちあるき」の機会が生まれた点において、郷土意識の高まりを市民の力で実現したことで、宝塚や地元の街を再評価する契機となったと考えます。</p>	<p>地域の魅力をスケッチという手法を用いて再発見していくという企画は、多くの市民の注目を集めたことが、作品の応募数や市民投票数から伺えます。</p> <p>また、参加者にアンケートを実施し、市民の意識を調査するなど事業の充実に努め、寄せられた作品の展示会の開催や絵葉書の作成など、作品を活用した取り組みを評価します。今後の展開に期待します。</p>
6	環学会	<p>環境にやさしいまちづくり</p> <p>1 勤労市民センターでのみどりのカーテンづくり(5/19 10/7) 同館正面、側面にゴーヤ、朝顔、ふーせんかつら等計40本を植え、猛暑の中一日も欠かさない朝夕の水やりを遂行して見事みどりのカーテンを作りあげた(延べ150人)</p> <p>2 市民との交流・きずなづくり 5/19 講習会・畑先生の講演、苗の育て方の講習、苗の配布(70人参加、勤労市民C) 8/8 市民交流会・勤労市民CでボランティアGによる収穫ゴーヤの調理、試食会を開催し、市民との交流を深めた(70人参加) 8/20 みどりのカーテン実施者宅への訪問見学学習会(24人で5ヶ所訪問)</p> <p>3 宝塚ひよこ保育園との交流 5/20 保育園での園児と共同での苗の植え付け(5人参画、園児13人) 5/27 運動会への参加(6人) 8/8 市民交流会での園児によるパフォーマンス実施(園児12人)</p> <p>4 その他 #啓発紙「緑のカーテンづくりミニガイドブック」の発行 1,500部</p>	400,000円	<p>1 みどりのカーテンづくり ・勤労市民センターの正面入り口のみどりのカーテンを作り、温度差12℃を実現して来館市民に涼しさを与えると同時に手入れ時に約500人との交流を実現した</p> <p>2 市民との交流・きずなづくり ・市内で45人の人がみどりのカーテンづくりにチャレンジし、35人の方が成功した ・講習会、市民交流会(試食会)を通じて約100人以上の方々と交流し、親交を深めた ・みどりのカーテン実施者宅への訪問は「きずな」面および技術面の向上に大いに役立った</p> <p>3 園児との交流 ・今年度の活動の中で最も際立っているのが保育園児との交流と云え、以下の成果があった ・園児達と一緒に苗を植え付け、水やりを遂行する事により園児のいきものに対する「悪いやり」が育成された。同時に我々にもほのぼのとした「温かい気持ち」を与えてくれた。 ・市民交流会での園児たちのパフォーマンスは出席した大人たちから大喝采を得て、より一層大人どうし「きずなづくりに貢献した。</p>	<p>環境政策課</p> <p>市も継続して取り組んでいる緑のカーテンは、夏場の節電対策やCO2削減に寄与するとともに、花や緑、昆虫などの生き物を身近に楽しんでもらうことの一助にもなります。同会は平成24年度から継続して緑のカーテン事業を推進しており、緑のカーテンを設置している施設や住宅も増えてきています。講習会による普及以外にひよこ保育園を訪問、交流して子どもたちにとっても環境学習の良い機会になりました。講習会や団体同士の交流を通して、今後、より多くの市民同士がきずなを深めていけるのではないかと考えています。</p>	<p>緑のカーテン事業を通して、市民の交流が深まり、活動の幅が広がったことを評価します。特に保育園での園児との植え付けやそれを通じた交流は、教育的見地からも意義深いものと考えます。</p> <p>今後とも、継続した事業の実施により、市内全体に緑のカーテンが普及することを期待します。</p>
7	つながりづくりネットワーク宝塚	<p>みんなの防災カアップをめざして～まちと暮らしの安全網を築こう～</p> <p>9月28日(土)17:00～19:00 男女共同参画センターエル 神戸クロスロード研究会 講師西おさむさんと打ち合わせ・設問づくり研修5人 11月14日(木)16:00～17:00 高司児童館 なかよしタイム「ナマズの学校」紙芝居ゲーム開催 参加者5人 12月2日(月)9:30～11:00 総合福祉センター会議室 手をつなぐ育成会 第4回宝塚中学校区地区懇談会 13人参加 12月8日(日)13:00～16:00 東公民館 3階学習室 ～グラッ!みんなの危機～誰もが「助けて!」と言える社会にするために～ クロスロードゲーム設問づくり研修会、講師:神戸クロスロード研究会 西おさむさん 参加者20人(宝塚市総合防災課、宝塚協職員:西支援・南支援・ボランティアセンター、よりあい広場・地域包括支援センター、御殿山、民生児童委員、宝塚Lセンター:視力・車いす・ガイドヘルパー・自立生活センター三田:車いす・介助者、発達障害児の保護者、傾聴ボランティア・防災専門職(土木)、前年度参加者、つながりづくりネットワーク宝塚)</p> <p>2月16日(日)13:00～16:00 ぶらざこむ1 ～えー?ほんまに来るん?!～南海トラフ巨大地震に備えてみんなでクロスロードゲーム参加者59人(うち4人テーパーアシリテーターとして派遣費発生) その他:司会1、メインファシリテーター1、サブファシリテーター1、コンテナー1、受付2 3月30日(日)10:00～12:00 ぶらざこむ1 今年度事業ふりかえり総括</p>	250,000円	<p>昨年度のクロスロード参加者に、呼びかけたところ2名がメンバーに加わり設問づくり研修会に参画することになった。12月8日の災害時要援護者設問作り研修会では、当事者が災害時困難事項を発言し、自らの課題をゲームの設問として作成。その問題を2月16日の「みんなでクロスロードゲーム」の設問として採用した。当日、問題づくりに参加した当事者の方々が一般参加者と共にゲームに参加し、多くの人と要援護者の問題を共有することができた。また、消防本部予防課の協力により武庫川左岸の自主防災組織へ呼びかけることができ、近隣の自治会、まち協からの参加者があった。各テーブルでは、障がい当事者、中間支援組織、親子連れ家族など、さまざまな背景をもつ参加者が、クロスロードを通し災害を疑似体験し防災についてそれぞれの意見を発言し、対話する場となった。 発達障害の子どものためにテントを張るかどうかという12月8日に作った設問に対し、参加した当事者から、同意の発言があった。アンケートとその後の報告によれば、地域の防災拠点を考える話し合いにつながったテーブルもあった。</p> <p>宝塚市全域を地域として考え、多重のセーフティネットをつくるため、1人からでも参加できる防災啓発活動は、みんなの防災カアップにつながると期待される。来年度この取り組みを「広げる」事業として、防災マップの活用や避難所模倣体験なども含むワークショップを開催していきたいと思っている。</p>	<p>総合防災課</p> <p>既存のクロスロードではなく、自らの課題等を話し合い作成した設問を用いた防災啓発ワークショップには多くの地域の方々からの参加があり、地域における助け合いが進み、地域の防災カアップにつながった。</p> <p>この成果を市内全域へ還元するなど、3年目の「広げる」事業として展開されることを期待します。</p>	<p>災害時要援護者の困難事項についての課題を、クロスロードゲームの設問にし、参加者同士が要援護者の問題を共有できたことを評価します。今後とも地域の実情に即した取り組みを継続して実施していけることを期待します。</p>

No.	申込団体名	自己評価			評価		
		事業概要	決定額(円)	効果	担当課意見	審査委員意見	
8	(特)いきいきシニアセミナー	<p>づか塾</p> <p>実施時期 講座:平成25年10月26日～26年3月29日</p> <p>○場所 プレミラ宝塚、東公民館、市内地域・ボランティア活動団体活動場所</p> <p>○回数 全13講座+2体験プログラム</p> <p>○内容(講座名)①さあ、始めよう仲間づくり! ②身近な宝塚の地域福祉について知ろう! ③リタイアこそチャンス! 動くのは今でしょ! ④美味しく、身体の喜ぶクッキング⑤巡礼街道で学ぶ奥の深い宝塚! ⑥知ろう、魅力ある宝塚と周辺の歴史⑦先輩シニアの体験を学ぶ⑧まずは自分の健康づくりから⑨多様な人間関係を知って多彩な人生を⑩若いと向き合って安心安全を! ⑪人付き合いを楽しく～⑫色使いを見直そう、カラーって大切⑬さて、これからの道は見つかりましたか? (体験活動)地域活動1日、ボランティア活動1日</p> <p>○参加者数 23名・通期講座出席率84.6%、皆勤2名 体験活動参加率97.8%</p>	500,000円	<p>○仕事中心の日々であった人達には地域宝塚への関心を喚起すると共に地域で活躍する楽しさや生きがい創出へと繋がる事を認識、実感していただいた。</p> <p>○日々何をしようかと、きっかけ作りの場として受講した方にはその動機付けになった。</p> <p>○何らかの形で地域やボランティア活動にかかわっている方にはコミュニケーション、仲間づくり等を学ぶ事により新たな活動の視点を持つ事と他の活動との連携も意識し始めた。</p> <p>○づか塾8期生として卒業後のグループを結成し、新たな活動をスタートさせた。</p> <p>(7期までのOB組織との連携、相互啓発、相互交流も可能になり幅が拡大した。)</p> <p>○受講中の活動体験プログラムをきっかけとしてその地域、ボランティアグループ員に加わり活動を開始している人達がすでに数人いる。</p> <p>○地域、ボランティア、福祉以外の周辺講座(宝塚への関心を持つ講座、コミュニケーション形成に関する講座、健康や生活を豊かにする講座)で自分づくり、人間関係づくりを会得した。</p> <p>○全講座修了で全員が地域活動やボランティアなど地域デビューを強く意識したことにより、卒業後の活動の開始や活動グループの質的向上に繋がる素地を築き上げた。</p>	(いきがい福祉課)	<p>当該事業は、地域における福祉活動の担い手を育成することを目的に、H18年度からH24年度まで本市及び市社会福祉協議会の事業として展開し、その間、カリキュラムや講師の調整、各回講座の運営を当該団体の全面的協力のもと実施された。</p> <p>H25年度は市や社協からの財源がない中で、団体が事業継続の必要性を考え、その財源にきずなづくり推進事業補助金を充てて運営され、これまでに変わらぬ事業効果を上げている。</p> <p>なお、H26年度以後は事業の重要性を再評価し市が財源を確保し、事業展開する予定。</p>	づか塾の受講がきっかけとなり、地域活動やボランティア活動への参加につながるなど、活動の担い手を育成する意味で効果をあげていることを評価します。継続した事業の実施により、受講生が広く地域で活躍することを期待します。
9	「生」折りのメッセージ実行委員会	<p>「生」折りのメッセージ</p> <p>① 8月17日(宝塚観光ダム左岸一帯)</p> <p>内容:「生」ライトアップ、1000の折りの灯、光のアートオブジェ、折りのコンサートなど</p> <p>参加人数:3,500人</p> <p>② 10月14日(宝塚観光ダム直下の中州)</p> <p>内容:再生可能エネルギー(太陽光発電)による「生」ライトアップ</p> <p>参加人数:300人</p> <p>③ 1月16日(宝塚観光ダム直下の中州・宝塚大橋南詰め月線「生」モニュメント前)</p> <p>内容:阪神淡路大震災19年目「生」ライトアップ、元宝塚歌劇団男優によるアカペラ独唱</p> <p>参加人数:500人</p>	400,000円	<p>「生」は本来、阪神・淡路大震災大震災のメモリアルであるが、平成23年、3・11東日本大震災発生後、宝塚市から発信する「生」の活動が全国的に注目され、本事業を展開することにより目的が明確になってきた。本事業は「折り」をテーマに、大人から子どもまで楽しめる手作りのイベントである。多くの市民が本事業に関わり想いをひとつにすることができた。</p> <p>夏<8月17日>は、市内の小中学生が制作した「牛乳パックによる子ども手作り灯籠」地域の芸術系大學生作品「光のアートオブジェ」の展示、市内在住のミュージシャンによる折りのコンサートが場を盛り上げた。夏と秋<10月14日>の「生」ライトアップは、市内のNPO新エネルギーをすすめる宝塚の会の協力で、再生可能エネルギー(太陽光発電)によりLEDでライトアップされた。</p> <p>冬<1月16日>は、阪神・淡路大震災19年目、市内震災犠牲者118人数の機中電灯を使って「生」をライトアップした。宝塚大橋南詰金属製「生」モニュメントには、折りのメッセージを標した118のグラスキャンドルが灯され、元宝塚歌劇団花組ソプラノ歌手真丘奈央さんによる追悼アカペラが独唱された。青少年「赤い糸運動」との連携など、他団体との協働で相乗効果をあげた。</p>	政策推進課	<p>2010年に2代目となる「生」の石積みオブジェを武庫川の中州に再現されて以降、「生」というテーマを軸に様々な主体との連携による活動へと発展させ、さらに、再生可能エネルギーへの市民の挑戦が見える化できたことは、生のオブジェが本市にとって欠かせないものへと定着してきている点において評価でき、まちの活性化にも繋がられてきていることは大変意義があると思います。</p> <p>平成27年1月17日には、阪神・淡路大震災から20年目となる節目を迎えます。本プロジェクトの趣旨や現在までの取り組みを大切にしながら、今後も継続した活動を進められることを期待します。</p>	石積みオブジェから始まった活動も、子どもから大人まで楽しめる工夫を凝らすことで、多くの市民が身近に芸術に親しむことができる活動に発展したことを評価します。地域住民をはじめとして地域の団体やNPO団体との連携ときずなを深め、協働による新たな活動の展開に期待します。
10	宝塚まち遊び実行委員会	<p>「写真が物語る宝塚の歴史」モデル事業</p> <p>2013年6月～12月 写真提供の呼びかけ、企画検討、チラシ等作成</p> <p>2014年1月27日 記者発表(2/7神戸新聞に掲載)</p> <p>2014年2月13日 ラジオ関西に出演</p> <p>2014年2月14日～2月22日「オールドファッション宝塚展」開催</p> <p>場 所:ギャラリーポオ(宝塚市逆瀬川12丁目)</p> <p>内 容:市民から提供を受けプリントした写真を展示し、宝塚市が誕生した昭和20年代の雰囲気を表 現した企画展。展示内容の構成にあたっては、宝塚映画祭実行委員会、市立中央図書館、地元の商店・神社などの協力を得た。参加者は延べ約200名。</p> <p>2014年2月23日「オールドファッション宝塚展開催記念 落合さとこギャラリーライブ」</p> <p>場 所:ギャラリーポオ(同上)</p> <p>内 容:山口県山口市に居住し、首都圏でも活躍するシンガーソングライター落合さとこ氏による弾き語りコンサート。有料参加者36名(延べ約40名)</p>	200,000円	<p>① 市民から提供を受けた写真を整理し、スキャン・補正処理・プリント・パネル貼り付け・キャプション作成など一連の作業をモデル的に実施した。古い写真については、時代がさかのぼるほど数も少なく貴重であるが、個人が保存しているものは整理されているとは限らず、一般に公開されることもほとんどないため、参加された方は熱心に鑑賞された。</p> <p>② 宝塚歌劇団の振付・演出家だった錢谷信昭さんと歌劇生たち、最後の良元村長 岡田幾さん、そして米軍進駐時代の生活の様子などを紹介した。来場者からは、当時の様子や自身の体験を話され、交流が生まれた。近い過去であっても、多くの市民にとっては知る機会のない歴史であり、まちのアイデンティティを共有するために、歴史を編集し、記録とともに展示することが必要であると感じた。</p> <p>③ 会場にはトリプル周年ロゴを掲示し、来場者には市制施行当時のパレードや式典の様子を観ていただくことで、市制60周年を意識していただく機会となった。また、神戸新聞、ラジオ関西、FM宝塚などのメディアが取り上げてPRに協力して下さった。</p>	政策推進課	<p>宝塚市制60周年を機に親から子へ、子から孫へと語り伝えたい懐かしいふるさとの姿を広く市民に知ってもらうために、行政では、記念式典等で本市の街の変遷の写真展、また、民間では宝塚市制60周年記念写真集「ふるさと宝塚」が出版されているが、今回の宝塚まち遊び実行委員会の企画「オールドファッション宝塚」は、個人所有されている今まで一般人の目に触れたことがない貴重なものが大多数を占めており、多くの市民に本市の歴史を目で見る機会を提供したことは意義深いものであると考えます。</p>	まちの歴史と市民の生活の歩みを、個人所有の写真を通して広く市民に紹介するという試みは、当時を知る人にとっては懐かしく、また知らない人には新鮮な感動を与える意義深い事業であると評価します。写真の背景となる街並みや当時の生活の様子など、貴重な記録として今後も活用されることを期待します。